

地域資源の確保・充実を

宮津市
三原 みゆき さん



およそ9年ぶり、2度目の登場となりました。

「看護師として病院に来られた方を看護するより、保健師として自宅に訪問し病気の予防につながるような活動をしたかった。」と保健師になったきっかけを話す三原さん。

現在は介護予防係に所属し、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーとして居宅ケアマネの支援、高齢者の相談窓口、要支援者の対応等の業務に追われ、日々奮闘中だ。

高齢化率34%という宮津市では、若い世帯が都市部へ移り、高齢世帯や老老介護の増加が問題となっている。高齢者の“子どもに負担をかけたくない”、“住み慣れた所に住み続けたい”などの思いに対し、専門職等の不足など社会資源不足により十分なサービスを提供できない現状をどのように改善・充実させていくかが課題だという。

高齢化に伴い、認知症の増加も大きな課題であり、認知症であることを周りに知られたくないという家庭がまだまだ多い中、どうすれば認知症が正しく理解されるか模索中だという。また、高血圧や生活習慣等を改善することで認知症の予防につながることから、運動機能向上の教室等を実施するなど予防活動に努めている。

「高齢の方々の希望する生活になるよう少しでも貢献できたらと思います。」

これから、団塊世代が高齢化し、ますます福祉の需要が高まると予想される中、高齢者が安心して暮らせる町を目標に、地域全体の問題を把握し、しっかりと介護予防できるような地域資源の確保・充実を努めたいと語った。